

■子育て世代（転入ママ）からの意見

転入して感じた「鈴鹿市の良いところ」、「足りないところ」、「住みたいまちになるために」について意見交換を行いました。

1 転入して感じた鈴鹿の良いところ

- ・子育て支援センター、つどいの広場が多い
- ・子ども医療費助成が現物給付
- ・保育所、幼稚園が多い
- ・私立保育所の開所時間が長い
- ・日曜日、祝日の休日保育が充実している
- ・3年保育を実施している公立幼稚園がある
- ・公園が多い
- ・公民館などでイベントに参加できる
- ・スーパーなどの生活に便利な施設が多い
- ・平田駅周辺は生活に必要なもの（スーパー、飲食店、駅まど）がそろっている

2 転入して感じた鈴鹿市の良くないところ（足りない）

- ・子育て支援センターの利用予約がWEBでできない
- ・子どもが学びながら遊べる屋内施設がない（雨の日の行き先が限られている）
- ・子ども医療費助成に所得制限がある
- ・一時保育実施施設が併設されたショッピングモールがない
- ・キッズスペースを併設した飲食店が少ない
- ・側溝に蓋がないところがあり、歩き子どもなどにとって危ない
- ・就学前の子どもが、文化・科学・芸術を気軽に学べる場所がない
- ・1歳6か月児の健康診査の実施順が、内科健診、歯科検診をしてから積み木になっており、積み木をする時には子どもがぐずっている。順番を変えた方がよい。
- ・動物と気軽に触れ合える施設がない
- ・イベントの情報が入手しづらい（入手できた頃にはイベントが終了している場合も）
- ・災害対策に関する情報が入手しづらい
- ・白子駅前の商店街に活気がない
- ・どこへ行くにも渋滞する道路を通らざるを得ないことが多い
- ・高速道路を利用しづらい（I Cまでが遠い）

3 鈴鹿市が「住みたいまち」になるには

- ・子どもが安心して生活できるための防犯対策、交通安全対策の充実し、子どもを1人で学校に送り出しても不安にならない環境（街灯、ガードレールの設置など）
- ・子どもが伸び伸びと育つことができる環境づくり
- ・子どもが新しいことにチャレンジしやすい環境づくり（空き店舗を利用した高校生向けのチャレンジショップを企画する等）
- ・鈴鹿の特色や歴史を子どもが楽しみながら学べる場所の充実
- ・災害に強いまちづくり
- ・公共交通の利便性向上
- ・白子駅周辺の活性化（高校生を巻き込んだ商店街空き店舗の活用）
- ・高齢者が生活しやすい環境づくり（行きたい場所に移動でき、地域住民につながりがある）
- ・市を跨いだ近隣施設の積極的な情報提供